

# 家庭科における問題解決的な学習過程を取り入れた授業づくり

～生徒の実態に応じた授業展開～

古里 王明 荒川 由希子 田口 朱美（熊本大学教育学部附属特別支援学校）八幡 彩子（熊本大学大学院教育学研究科）

## 生徒の実態 (高等部2年生8人)

・未経験の事柄についてのイメージを持ちにくく、問題の把握や学習への意欲の継続が難しい生徒が多いが、経験下したことのある事柄だとイメージを深めたり、意欲的に学習に取り組むことができる。

## 仮説

・授業に問題解決的な学習過程を取り入れることで、生徒が問題を把握しやすくなり、意欲的に授業に参加することで、理解度の向上を図ることができるのではないか。

## 授業の実際

### 住(整理整頓)



散らかった部屋の中から指定されたものを探す

### 食(弁当作り)



冷凍食品を調理してみる

### 衣(衣替え)



衣替えをしていない部屋から秋冬物を取り出す

### 消費(金銭・買い物)

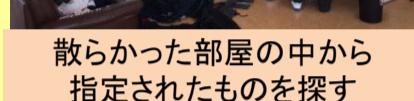


実際に現金とICカードで買い物をする

## 授業づくりの ポイント

### つかむ

体験を通して問題をつかむ



散らかった部屋の中から指定されたものを探す

- ・授業のはじめに「自分なりの方法で実際の体験をやってみることで、生徒自身が問題を把握しやすくなる
- ・問題の把握ができたことで、その後の「さぐる」「深める」「まとめる」過程への意欲の喚起につながる

### さぐる

解決・改善策を探る



整理整頓の仕方について意見を出し合う



自分で作れるメニューの検討をする



どうしたら効率的に探せるか話し合う



現金と電子マネーの違い等について意見を出し合う

### 深める

検討したことを実際に実行する



意見をもとに片付ける



実際に調理する



衣替えをする



買い物の様子をビデオで見て現金と電子マネーを比較する

### まとめる

再実行によって検討したことが有効であることに生徒自身が気付く



再度指定されたものを探し、整理整頓の重要性に気付く



冷凍食品を再度調理し、調理に必要なものに自分で気付く

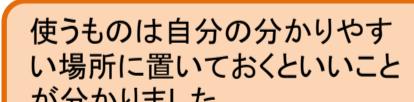


衣替え後の部屋の中から再度秋冬物を取り出し、衣替えの必要性やその方法に気付く

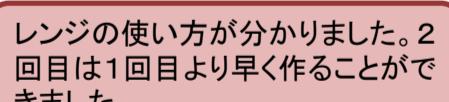


現金と電子マネーのメリットデメリットをワークシートでまとめる→修学旅行単元で再度実行する

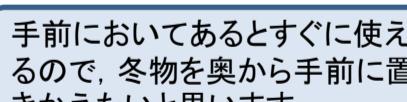
### ワークシート から



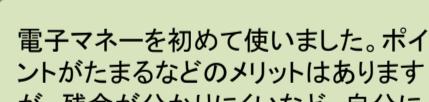
使うものは自分の分かりやすい場所に置いておくといいことが分かりました。



レンジの使い方が分かりました。2回目は1回目より早く作ることができました。

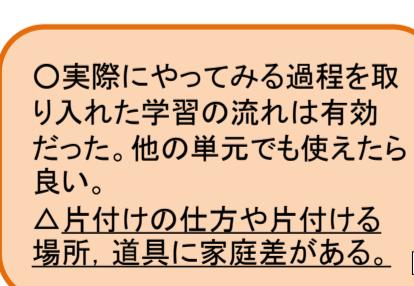


手前においてあるとすぐに使えるので、冬物を奥から手前に置きかえたいと思います。

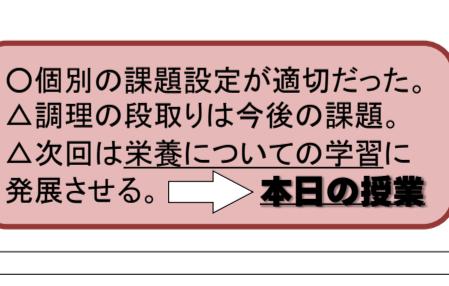


電子マネーを初めて使いました。ポイントがたまるなどのメリットはありますが、残金が分かりにくいなど、自分にとって便利かどうか微妙です。

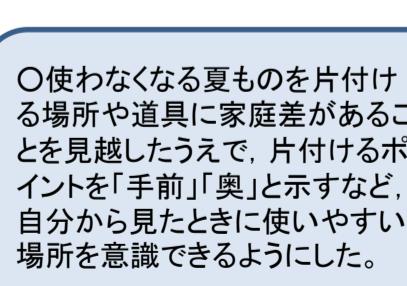
### S研からの 授業改善



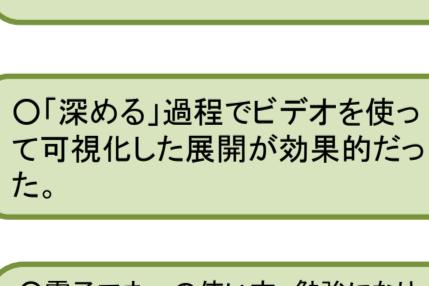
○実際にやってみる過程を取り入れた学習の流れは有効だった。他の単元でも使えたなら良い。  
△片付けの仕方や片付ける場所、道具に家庭差がある。



○個別の課題設定が適切だった。  
△調理の段取りは今後の課題。  
△次回は栄養についての学習に発展させる。→ **本日の授業**

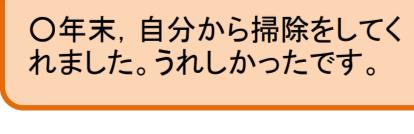


○使わなくなる夏ものを片付ける場所や道具に家庭差があることを見越したうえで、片付けるポイントを「手前」「奥」と示すなど、自分から見たときに使いやすい場所を意識できるようにした。

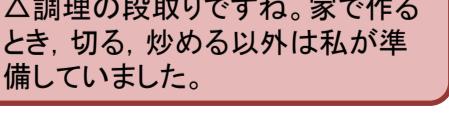


○「深める」過程でビデオを使って可視化した展開が効果的だった。

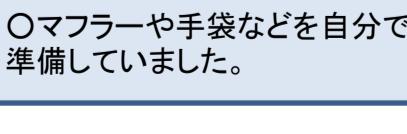
### 連絡帳より



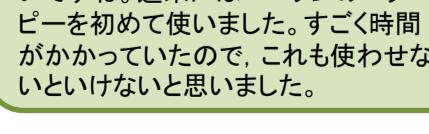
○年末、自分から掃除をしてくれました。うれしかったです。



△調理の段取りですね。家で作るとき、切る、炒める以外は私が準備していました。



○マフラーや手袋などを自分で準備していました。



○電子マネーの使い方、勉強になりました。使わないと知らないことが多いですね。週末にはローソンのロッピーを初めて使いました。すごく時間がかかっていたので、これも使わせないといけないと思いました。

### 成果と課題

○問題解決的な学習過程を取り入れ、生徒が問題の把握がしやすくなつたことで、「さぐる」場面での意見が活発になつたり、「深める」場面での意欲の向上につながつたりした。また、「まとめる」での気付きや感想の欄の記入がより具体的なものになつた。  
△「つかむ」での体験課題の妥当性と家庭科における評価の検討が今後必要である。